



農機リース代3年分支給

農水省 規模拡大 移行期サポート

農水省は2025年度、リース（賃借）の農機を利用する農家を支援する事業を新設します。リース期間によらず、原則3年分の賃借料を支給。段階的に経営規模を拡大する際に、移行期に経営規模と所有する農機の大きさが合わなくなり、短期間だけリースの農機を利用するニーズがあることを踏まえました。

「地域計画」要件 25年度当初予算案に盛り込んだ「農地利用効率化等支援交付金」事業（予算額19億8600万円）でメニューを新設し支援。1月下旬から募集を始めました。

事業では、農機販売店やJAなどから農機を借りる農家に対

し、1500万円を上限に3年分の賃借料を支給。ただ、リース期間が4年以下の場合は、助成額はリース期間中の賃借料の75%です。

対象は、「地域計画」で地域の農地の将来的な受け皿に位置付けられている農家。地域計

画で掲げる、10年後の担い手への農地集積率が8割以上であることも要件です。他にも、経営面積を「3割以上」または「4ヘクタール以上」増やす必要があります。

集落ごとに将来の農地の利用方針をまとめる「地域計画」は、全国各地で3月末までに策定されます。計画では、10年後に誰が営農するのか農地1筆ごとに定めます。農地の受け皿となる農家は、今後どのように経営面積が増えていくか一定に見通しがたつようになります。

同省は移行期でも最適な大きさの農機を使えるようリースを新たに支援する（担い手総合対策室）。

新事業のポイント



事業名	農地利用効率化等支援交付金事業
対象者	地域計画に位置付けられている農家
支援内容	農機の賃借料を3年分支給（上限は1500万円） リース期間が4年以下の場合はリース期間中の賃借料の75%
要件	・地域計画で掲げる担い手への農地集積率が8割以上 ・経営面積を「3割以上」または「4ha以上」増やす

(日本農業新聞 2025年2月6日)

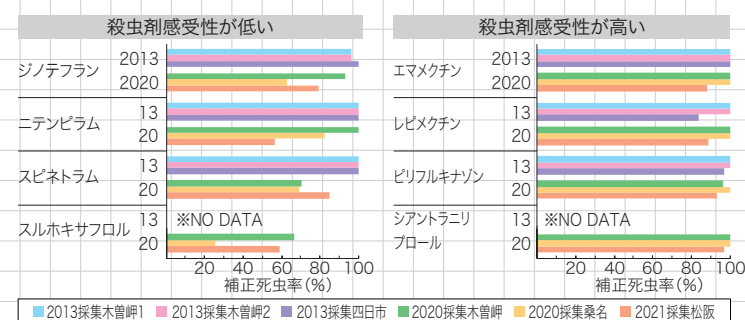
農業技術ピックアップ

三重県トマト産地における
タバコナジラミバイオタイプQの殺虫剤感受性

県内トマト産地では近年、タバコナジラミが媒介する黄化葉巻病や黄化病による被害が問題になっています。要因としては、タバコナジラミバイオタイプQの発生と、殺虫剤感受性の低下と考えられています。

トマト産地で使用される主要な8剤のうち、4剤に殺虫剤感受性の低下傾向が見られます（図1）。特に、6剤は2013年には殺虫剤感受性が比較的高かったのが、2020年にはそのうち3剤において感受性が低下しています。

感受性検定に供試したものは、2013年に採集した3個体群と、2020年及び2021年に採集



【図1】2013年および2020年におけるタバコナジラミバイオタイプQ成虫の殺虫剤感受性
殺虫剤感受性検定は、インゲン葉の葉片浸漬法を用い薬剤供試5日後の補正死亡率（Abbott, 1925）を算出。
シアントラニプロールとスルホキサフロはトマトのナジラミ類への登録が2013年以降のためデータなし

種類が減少していることを示しています。

殺虫剤感受性が低下し、防除効果が低い剤は、コナジラミ類媒介ウイルスの感染リスクの高い時期や、コナジラミ類の多発生時の使用を控えることが肝心となります。

また、複数の主要な殺虫剤の薬剤感受性が低下傾向にあるため、薬剤抵抗性管理の観点から気門封鎖剤、微生物殺虫剤や天敵等を取り入れ、化学合成殺虫剤の使用回数を減らすよう努める必要があります。

お問い合わせ先

基盤技術研究室 農産物安全安心研究課
☎0598-42-6360
中央農業改良普及センター
☎0598-42-6323

▼このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

JAバンクに相談しよう！

農業を営むすべての方に

農業
経営資金

JAバンク利子補給制度で
金利負担を軽減します

当初3年間
最大利子補給

年 1 %

農業経営に必要な資金として
幅広くご利用いただけます

トラクター・ドローンなどの 農業機械購入	栽培用 ハウス建設	畜舎建設
農地購入	農業運転資金	その他、農業経営に 必要な資金

取扱期限 2025. 3/31月

※JAバンク利子補給制度により、お借入れから3年後の店当日まで
最大年1.0%の利子補給が受けられます

詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください

JAバンク三重 農業資金

検索

JAバンク

三重県下JA
JA三重信連

